

「国葬」に思う

7月8日(金)安倍元首相が銃殺されて、様々な波紋が広がりました。政治と旧統一教会の関係、国葬閣議決定、安倍元首相の評価という複数の波紋が影響し合って、何が強められ、何が弱められるのでしょうか。10日の投票が済むまでは、「旧統一教会」の名を伏せた報道がされました。このことにより「民主主義への挑戦」という間違っただけの殺害動機が広がりました。そうと分かる前の14日に岸田総理はツイッター等で、「国葬」を行う意義として「我が国は暴力に屈せず、民主主義を断固として守り抜くという決意を示してまいります」と述べました。しかし、閣議決定(7月22日)だけで済ますことこそ「民主主義への挑戦」です。国会で話し合っただけで決めるという民主的手続きをとるべきです。「国民の権利を制限し、義務を課すような場合は必ず法律の根拠が必要」ということは当然のことです。「国葬」は、それにあたると思います。

7月12日安倍氏の家族葬にあたり、いくつかの教育委員会が弔意を示す半旗の掲揚を学校に求めました。東京都教委は、「特段の配慮をお願いする」として、半旗掲揚を依頼する文書を都立学校全校に送りました。兵庫県では、三田市教委が半旗掲揚への協力を求める通知を29校の全市立学校に出し、うち21校が掲揚したと報道されています。この事態から、国葬にあたっては国民に弔意が強要されることが予測されます。文科省は現在、弔旗と黙祷について検討中ということですが、弔意表明について通知を出せば、憲法19条、憲法20条の違反になると考えられます。

毎日新聞と社会調査研究センターの全国世論調査(8月20・21日)では、安倍元首相の国葬について、「反対」は53%で「賛成」の30%を上回っています。

多くの市民、団体が署名などを通して「国葬中止」の意思表示をしています。憲法の守られる政治を目指して声をあげていきましょう。(世話人 奥野泰孝)

九条の会！今こそ正念場だ！

「日本と世界の平和な未来のために、日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、改憲のくわだてを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力を、いまずぐ始めることを訴えます」。2004年6月10日九条の会発足時の「九条の会」アピール。

呼びかけ人9人の内、小田実・加藤周一・井上ひさし・三木睦子・奥平康弘・鶴見俊輔さんらは亡くなられ、澤地久枝さんだけがお元気で活動されています。

その後、「九条の会」のアピールに賛同し、全国の地域や職場等にさまざまな名称をもつ組織が生まれるに至っています。

芦屋「九条の会」は、2005年5月に結成されました。2006年5月の1周年記念集会では、ルナホールに於いて、大谷昭宏・土井たか子・徳永信一・中西輝政(敬称略)の方々による「九条対決討論会」は圧巻でした。

ここ迄九条の会を振り返りました。少々長くなりましたが、さて、ここからです。「ウクライナ侵略が日本の安全保障上の脅威につながる」「9条を変えてよい」「9条では守れない」「軍拡が必要だ」の声は少なくありません。「軍事強化よりも外交強化」9条によって平和の歴史をつくってきたこと、9条の資産を生かした外交、憲法9条の果たす役割を！今こそ！これからが！正念場ではないでしょうか？

(世話人 上野隆壽)

講演会のお知らせ

演題:「非戦の誓い『9条の輝き』

～改憲と軍備増強で平和は確保されるのか?～」

講師:渡辺治さん(一橋大学名誉教授)

日時:11月27日 14:00～16:30

場所:芦屋市民センター(予定)

主催:芦屋「九条の会」

*詳細は次号ニュースでご案内します。